

## 「行革甲子園 2018」エントリーシート

### 【取組の内容】

#### 1 取組事例名

地域力を活かしたハンドボール選手権大会～地域とチームがシェイクハンド～

#### 2 取組期間

平成 17 年度～（継続中）

#### 3 取組概要

平成 17 年度から本市を会場として開催されている「春の全国中学生ハンドボール選手権大会」は、各都道府県の中学生代表チームが一堂に会する唯一の大会である。市の働きかけにより、延べ 1,000 人を超える地域住民が、地域ごとにそれぞれ担当する出場チームを応援する「応援サポーター」となり、彼らによる応援、歓迎や選手、チーム関係者との交流等が行われている。

全国から多くの方が集まる本大会は、第 8 次総合計画の重点プロジェクトである 300 万人交流推進プロジェクトの一翼を担っている。

#### 4 背景・目的

本市にハンドボールが根付くきっかけになったのは、昭和 33 年に開催された富山国体において、本市がハンドボール会場になったことが大きな要因として挙げられる。また、この大会において、高校男子の部で地元の氷見高校が優勝し、盛大なパレードが開かれたことから、以降本市では、ハンドボールの裾野を広げる活動が行われてきている。

本市は「ハンドボールの聖地」を目指して、これまでも多数の全国大会などを開催してきたが、加えて平成 17 年度から「春の全国中学生ハンドボール選手権大会」を開催しており、本大会に参加するために遠方から駆けつけてくれる中学生、保護者及びチーム関係者に対して、地域住民が“おもてなし”を行うことで、本市をより多くの方に知ってもらい、愛着を持ってもらいたいという発想から、市内各地区の住民で構成する「応援サポーター制度」を開始した。

## 5 取組の具体的内容

### (1) 春の全国中学生ハンドボール選手権大会について

本大会は、「中学生があこがれる、ハンドボール競技の拠点を形成し、スポーツの振興と地域の再生に寄与する」ことを目的として開催されている。中学生ハンドボーラーの憧れの舞台である本大会を東京オリンピックが開催される 2020 年第 15 回大会まで継続開催することとしている。

中学生ハンドボーラーは「春は氷見へ」の合言葉のもと、日々の練習において、チーム全員で切磋琢磨しながら、協力し合い、ともに苦難を乗り越え、チームとしての信頼感を強め、心身ともに逞しく成長している。

平成 29 年度大会前のオープニングアトラクションでは、ハンドボールを基にして開発された、ゆるスポーツ「ハンぎょボール」(ハンドボールと氷見特産の「魚」をかけたもの)が全国初披露され、ハンドボールを子どもからお年寄りまで楽しめるスポーツとして広める取り組みがなされている。

### (2) 応援サポーターについて

市の依頼により、各地区から応援サポーターを推薦していただき、割り当てられた担当都道府県の出場チームの応援、歓迎、サポート等を行っている。

#### 1) 応援サポーターの活動

- ・ 応援する都道府県やチームを地区住民に伝達、応援団の結成
- ・ 応援道具等の準備
- ・ 応援団の引率、誘導、試合での応援
- ・ チームの保護者等の応援団や監督・選手との交流 など

#### 2) 応援サポーターと選手との交流事業

- ・ 宿舎や応援チームのある学校への訪問交流
- ・ 名産品やお土産の交換
- ・ 植樹イベントの実施
- ・ 差し入れやチームの保護者との交流会 など

## 6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

本大会の大きな特徴は、出場チームごとに市内各地区から集められた「応援サポーター」がいることである。平成 29 年度の「応援サポーター」は市内全体で 334 人にのぼり、大会を通じて延べ 1,000 人を超える市民が応援に駆けつけている。なお、市内各地区のサポーターが応援を担当する都道府県は毎年同じであるが、これは地区が担当する都道府県に愛着を持ってもらいたいという思いからである。応援サポーターは、出場チームを応援、歓迎及びサポートする役割を担い、出場チームの保護者からは毎年感謝や喜びの言葉をいただいている。

### 【応援サポーターに対する保護者の声】

「地域サポーターが、子どもの名前を覚えてくれていて感動した。」

「自治会の応援は嬉しい、心強い。」

「他の大会に行っても、開催地の応援ばかりでとてもアウェー。地元の人が応援してくれて嬉しい。」

また、独自の工夫を凝らして応援を行うサポーターや地区ができており、地域住民の温かい心と応援チームを鼓舞する熱い気持ちが込められている。

- ①ジャンパーやのぼり旗を独自に作成し、担当県の出場チームを応援
- ②出場チームとの交流を図るため、応援チームの選手と応援サポーターが植樹イベントを開催
- ③ゲン担ぎのため、地元名産の氷見牛を使ったビーフカツカレーでおもてなし
- ④普段雪に触れることができない南国出場チームの選手に対して、雪遊びができる環境を提供
- ⑤応援サポーターが担当する都道府県を毎年訪問する

さらに、本大会の開催当初から、行政、学校、観光協会、商工会議所、スポーツ団体、宿泊施設、ボランティアグループなどさまざまな団体関わっている。多くの団体に関わることで、多くの市民を巻き込むことができた結果、ハンドボールを通じた郷土愛の醸成に結びついている。

## 7 取組の効果・費用

応援サポーターによるサポートや歓迎が、来会者との温かい心のふれあいや交流を生んでいる。大会を通じて市民と全国の人々との交流が生まれ、大会後も、応援チームとの交流を継続している応援サポーターもあり、彼らの応援チームへの愛着や繋がりが年々強くなっていると感じる。ハンドボールというスポーツで競い合うだけでなく、「応援する」という観点から、交流やつながりが生まれていることは大きな効果である。

また、地域住民が応援サポーターとして本大会に参加することにより、「氷見＝ハンドボールのまち」という認識がさらに強まっており、来会者からは、“親切な人ばかりで、地元のサポートが熱い”との声もいただいている。来会者にとって「地域全体でハンドボールを振興している」という印象を与え、それが「氷見＝聖地」という認識を強めている。

費用面については、総額約 3,000 万円の大会運営費のうち、氷見市は 1,450 万円負担しているが、その資金の大部分は、ふるさと納税や、JA 氷見市による地元の特産品ハトムギ茶の収益金の一部の寄付等、地元企業や氷見所縁の団体等、氷見とハンドボールを愛する人々の応援によるところが大きい。

なお、応援サポーター活動費としては、1 大会あたり約 180 万円の経費がかかっているが、5 日間の大会期間中に延べ 1,000 人を超える市民が全国から集まった人々をもてなし、応援することは、氷見市の PR に大きく役立っている。特に選手である中学生やその保護者には、深く印象に残り、氷見市に愛着を持っていただくことができる。

今後は、来会者が氷見市を思い出の地として、故郷のように感じて再訪してくれることを期待している。

## 8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

本大会を通じて、ハンドボールの聖地 氷見という認識は広がりつつあるが、中学生や一部高校のみの認識に止まっており、大学・実業団など幅広い世代のプレーヤーの憧れにはなっていない。現に、本大会を経験した高校生からは、“中学生の時は、（ふれあいスポーツセンターという）聖地での試合だと思ったが、高校では思わなくなった”との声も聞かれている。この大会をひとつのきっかけとして、市全体として幅広い世代を対象にしたハンドボールの取り組みを継続させていくことが重要である。地元住民が「ハンドボールの聖地は氷見だ！」と胸を張って言えるよう、ハンドボールをより地元浸透させることが必要である。

また、地区ごとの担当都道府県の割り振りについて、大会を重ねると毎年同じ都道府県を応援するとチームの力の差により、サポート回数に偏りが発生するという意見もあり、応援サポーターにアンケート調査を実施した。結果、慣れ親しんだ都道府県がよいとの結果に至った経緯がある。

## 9 今後の予定・構想

現在は、行政が主体となって応援サポーターを募っているが、今後はサポーター制度の認知が拡大し、自発的に応援を行う地域住民が増えることを期待している。さらに、応援サポーターや大会関係者だけではなく、より多くの市民を巻き込みながら、継続させていく必要がある。このことにより、「氷見＝ハンドボールのまち」という意識がより醸成され、ハンドボールを通じた交流が拡大していくと同時に地域の活性化につながることを期待している。

## 10 他団体へのアドバイス

行政が主体となってスポーツ大会を開催することは簡単であるが、地域住民の参加を促し、関わりを持ってもらうことは難しい。本大会のように地域住民に「応援サポーター」として大会に参画してもらうことで、地域をPRすることにつながるし、地元の熱い思いを伝えることもできる。大会出場者にとっては、それが思い出に残り、愛着を持ってもらうきっかけになる可能性がある。行政だけではなく、多くの市民に関わりを持ってもらい、大会を継続させていくことが大切であると考えます。

## 11 取組について記載したホームページ

春の全国中学生ハンドボール選手権大会 HP <http://haruhand.net/>.

一般財団法人地域活性化センター活動事例

<https://www.chiikinogennki.soumu.go.jp/jirei/toyama/16205/2015-0225-1607-1906.html>

総務省ふるさと納税活用事例の公表

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01zeimu04\\_02000052.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01zeimu04_02000052.html)